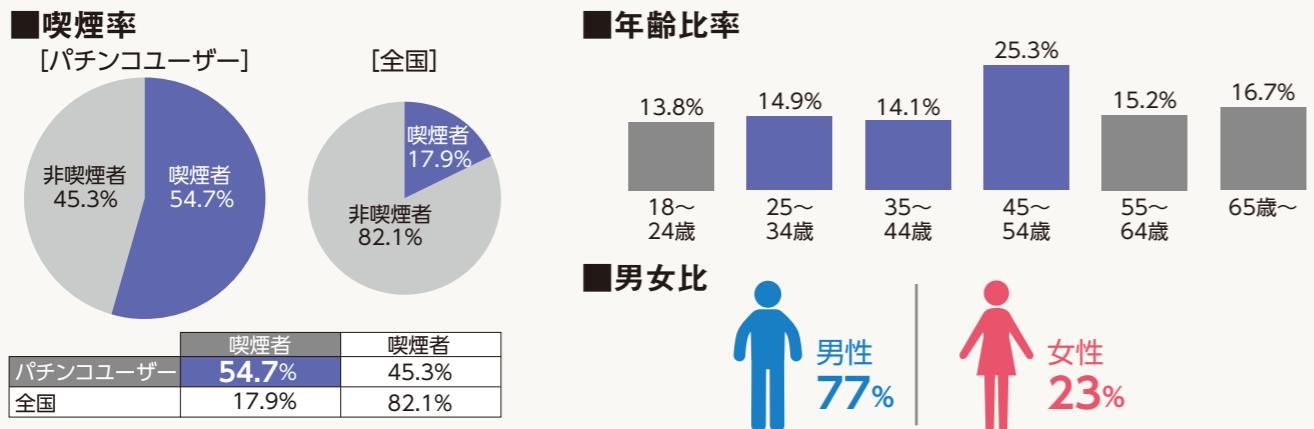


パチンコ店内喫煙所サイネージ『SMOKING AREA SIGNAGE』

◆業界の喫煙に関するユーザーデータ



◆メディアデータ・リーチ数



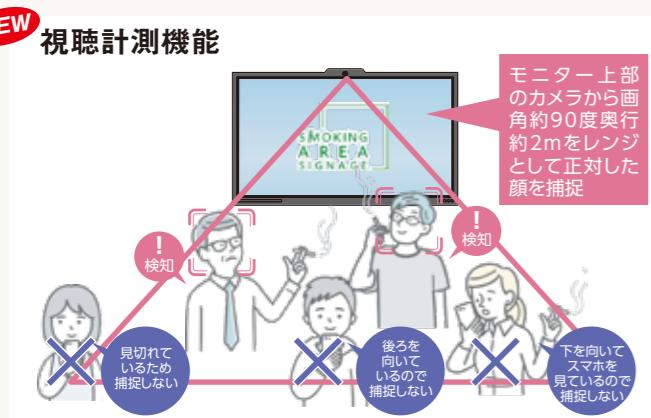
◆放送ロール構成



5分 営業時間中繰り返し放映

1回の平均利用時間5~6分の間に確実にユーザーへリーチ

NEW 視聴計測機能



き映像を放映することで、限られた時間で最大の広告効果を得ることができる。
直近では効果測定可能な「視聴計測機能」も実装した。事業化から5年、この独自スキームが評価され関東圏100店舗に設置されるなど、「SAS」の存在感は大きさを増している。

喫煙者にとって憩いの場所である「喫煙所」。この空間特性を活かし、着実に喫煙ユーザーへリーチできる広告メディアが存在する。

店内はLEDビジョン、デジタルサイネージ、イーゼルなどの広告媒体が溢れている。しかし、スマホの普及により、ユーザーの視線はスマホに集中し、情報が届きにくいのが現状だ。

そんな中、SNS広告やWEBプロモーションを生業にするCCG ENTERTAINMENTでは、遮断された空間の「喫煙所」に着目。パチンコ店喫煙所向けデジタルサイネージ『SMOKING AREA SIGNAGE』(以下、SAS)の企画を立ち上げた。

『SAS』は、パチンコ店の喫煙所トアプローチするための媒体だ。喫煙者の属性に鑑み、パチンコ・パチスロ関連に加え、スマホゲーを利用するユーザーへダイレクトに訴求。音声付き映像広告で視覚+聴覚に訴求

『SAS』は、パチンコ店の喫煙所トアプローチするための媒体だ。喫煙者の属性に鑑み、パチンコ・パチスロ関連に加え、スマホゲーを利用するユーザーへダイレクトに訴求。音声付き映像広告で視覚+聴覚に訴求

12月1日にはAIウェブカメラを活用した「視聴計測機能」を実装。AIカメラがユーザーの顔を検出・解析することで、ユーザー属性や視聴時間が計測可能となった。効果測定が難しいOOHメディアの課題を打破した格好だ。



喫煙所内で音声付き映像広告を放映する『SMOKING AREA SIGNAGE』。喫煙所の規模に応じて、タブレット型(21インチ)、テレビ型(43インチ)を設置。



企画立案、営業を担当するCCG ENTERTAINMENT企画部メディアチームの須藤優氏(右)、西山翔氏(左)。